

麻疹・風疹混合（MR）ワクチン予防接種説明書

〈麻疹（はしか）・風疹の予防〉

麻疹（はしか）とは？

麻疹ウイルスの感染によって起こります。感染力が強く、飛沫・接触だけではなく空気感染もあり、予防接種を受けないでいると、多くの人がかかり、流行する可能性があります。典型的なはしかは、高熱、せき、鼻汁、眼球結膜の充血、めやに、発疹を主症状とします。最初3～4日間は38℃前後の熱で、一次おさまりかけたかと思うと、また、39～40℃の高熱と発疹が出ます。高熱は3～4日で解熱し、次第に発疹も消失しますが、しばらく色素沈着が残ります。

はしかは、医療が発達した先進国であっても、かかった人の約1,000人に1人が死亡するととも重症の病気です。世界各地で、はしかは再び増加傾向にあり、途上国を中心に多くの小児がはしかで命を落としています。

●空気感染（飛沫核感染）

ウイルスや細菌が空気中に飛び出し、広い空間で人に感染させることです。麻疹（はしか）、水痘（水ぼうそう）、結核などが空気感染します。

風疹について

風疹ウイルスの飛沫感染によって起こります。潜伏期間は2～3週間です。典型的な風疹は、軽いかぜ症状ではじまり、発疹、発熱、後頸部リンパ節腫脹などが主症状です。そのほか、眼球結膜の充血もみられます。年長児や成人では関節炎の頻度が高く、予後は一般に良好ですが、血小板減少性紫斑病や脳炎の合併を認めることがあり、まれに溶結性貧血もみられます。また、大人になってかかると重症になります。

妊婦が妊娠20週頃までに風疹ウイルスに感染すると、先天性風疹症候群と呼ばれる先天性の心臓病、白内障、聴力障害、発育発達遅延などの障害を持った児が生まれる可能性が非常に高くなります。

接種について

麻疹ウイルス及び風疹ウイルスを弱毒化してつくった生ワクチンです。

病気の治療、予防などのためガンマグロブリン製剤の注射を受けたことがあるお子さんの接種時期については、かかりつけ医にご相談ください。

区分	対象者	回数	備考
第1期	生後12ヶ月から生後24か月に至るまでの間にある者	1回	第1期の予防接種は出来るだけ早期に行う。
第2期	5歳以上7歳未満の者であって、小学校就学前の一年間の間にある者	1回	接種が可能な年度になりましたらお知らせが届きます。

副反応について

麻疹ワクチンを接種した場合、発熱の持続期間は通常1～2日で、発疹は少数の紅斑や丘疹から自然麻疹に近い場合もあります。また、発熱に伴う熱性けいれんを来すことがあり、その他、脳炎・脳症があります。

重篤な副反応の報告はほとんどありませんが、約100万人接種当たり1人の割合で血小板減少新病が見られます。医療機関からの副反応疑い例として報告されたうちの重篤症例の発生頻度は0.00102%です。